

体育館トイレは数も少なくそのほとんどが和式トイレで高齢者障害者には利用が困難です。手すりがあり車イスで利用できる多目的トイレは小学校で16校中7校、中学校で8校中4校に各一つ設置されているだけです。

ただ、学校校舎には各階に多くの洋式トイレが設置されています。これを使ってもらうことで避難所生活の困難さを少しでも軽減することができそうです。

私は、まだ新型コロナウイルスが出る前の昨年10月の台風時からこのことについて指摘してきました。この6月議会で市長から校舎の全面利用の指示が出ました。

(三) 授業の見直し
3月から5月、小中学校の完全休校が続きました。この3か月間、授業は大幅に遅れています。各ご家庭では、そのフォローアップに大変なご苦労をされていると聞きますし、再開後の子供たちの様子も心配です。

① 授業時間の確保

本市は夏休みを8月1日〜24日の24日間と短縮し、授業日を10日間、ねん出しています。ただ、これだけで3か月間もの空白が埋められるのかは疑問です。

*他市は夏休みをさらに短縮しています。さいたま市8/1〜16

上尾市 8/1〜17

鴻巣市 8/1〜18

子どもたちの「学力向上」は市長の悲願ですが、教育長は夏休みをこれ以上短縮できないとしています。では、土曜授業や放課後補習はどうか。市長からは土曜授業は考えているとの答弁があり、さっそく

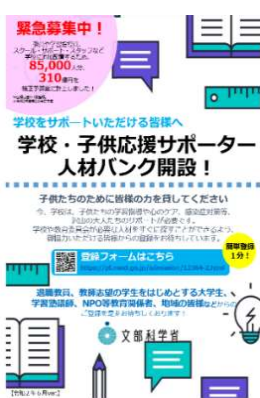
中学3年生に夏休み、土曜6回、3時間の補習授業について議会も追加決定しました。

② 教育人材の確保

本市費用で独自採用する二十数名の「浮き城先生」をこの4月から廃止し、毎年約1億3千万円の費用削減をしました。一方、新たに学力向上支援員の先生を

約40名採用しました。しかし、短時間勤務のため、その事業費は4千万円ほどです。教育現場を回ると、もと人材を入れて欲しいと声が上がっています。この年間削減額9千万円を、まさかコモノにあてる

のでは無いでしょうか、是非、教育を支える有能なパワーの充実に当てていきたいものです。



例えば、国の第2次補正予算で右のように「学校」子供応援サポーターの募集が始まりました。自前で人材が確保できないならば、国の新制度を利用し、多様な人材で子供の教育に力を注ぐときです。

③ 教育IT環境の整備

今、コロナ流行で、タブレット端末を使った在宅での授業の実現が急がれてきました。学校の授業が理想なのは当然ですが、再び休校に

なればこの方法しかないでしょう。どのような状況下でも、子供たちには教育の機会を十分に平等に与えなければなりません。

担当課が全家庭にアンケートを行ったところ、約8割の回答を得、そのうち9割のご家庭には、既にWi-Fi環境があるとのこと。未設置家庭の対応については今後の課題とのこと。

コロナ禍の教育には十分な補助が急務です。その一方で、10年で廃校になってしまう校舎に数億円の改修費をかけ、9学年を同じ校舎で授業を受けさせるため、教職員の数を削減する。このような「義務教育学校設立計画」を優先して、教育のIT環境整備などを後回しにすれば、将来に禍根を残しかねません。子供たちの教育は「待った」なし!

(四) 財政規律維持

今回は、政府から多額の交付金などに加え、本市の「万が一に備えての貯金」といふき財政

調整基金も取り崩しています。

第2波が来ればどうするか。予算や事業の見直し、また、市税や使用料金の減免による歳入減を見越した財務規律の確保も必要です。第2波には、どう対処していくか、よく準備し実行する市政が求められています。不要なコモノなど作るのではなく、「新しい生活」「新しい行政」が求められています。

(五) 議会改革

この一年間、私は議会運営委員会の委員長として「議論を活発に」「なんでも前例踏襲をやめて」「IT化を推進するべく議会運営に努力をして参りました。ちまたには、「議員は何もしていない。派閥を

作って役を取ることをだけをしにしている」という批判があります。しかし、真面目に取り組んでいるものも少なくありません。私も現場主義をモットーに各所に出向き話を聞き、本会議では全会議全てに登壇し問題をぶつけています。議員の最たる仕事は市政のチックです。たゆまず休まずやりま

す。日本中が未曾有の災禍に直面する中、議員は、怠けることなく「真の職責を尽くす覚悟と奮起」がなければなりません。



コロナ禍の議会で登壇

細谷美恵子

行田市荒木1019-3

TEL 048-598-8232

FAX 048-598-8234

HP miekohosoya.com

ブログ ameblo.jp/mimi68/

Twitter @mieko1960

Eメール miekohosoya@yahoo.co.jp